

忙 申 閑

今年の夏は本当に暑かった。特に7月後半から8月前半は連日最高気温が35℃を超え、最低気温も25℃を上回る日々であった。国連事務総長が述べられた「地球沸騰の時代」を実感させられた。この異常気象の原因は、偏西風の向き、高気圧の居座り、エルニーニョ現象や温室効果ガスによる温暖化など色々な要因が重なっているが、その対策に我々ができることといえば、温室効果ガスの排出抑制ぐらいである。このままでは、生物の生命が今後保たれるか不安である。

気候変動に関する政府間パネル第6次報告書の内容を見ると、▽地球温暖化は人間活動が招いたこと▽2011から2020年に世界平均気温は産業革命前に比べ1.1℃上昇▽

温暖化は自然と人々に広範な悪影響を及ぼし損失損害をもたらしている▽現在示されている国別目標では今世紀中に上昇が1.5℃を超える▽今後10年間に行う選択や対策は今から数千年先まで影響する▽温暖化の抑制や適応のためには現在より何倍もの資金投入が必要▽1.5℃に抑える目標のためには2019年比で2030年に43%、2035年に60%の排出削減が必要▽将来の環境変化の一部は不可避で不可逆的ではあるものの世界全体の大幅で急速な排出削減の持続でそれを抑制できる——と述べられている。

このように温暖化対策は大変重要で待ったなしだが、我々はどのような対策ができるのだろうか。

例えばヒートアイランド現象。都市の気

酷暑の夏

広報委員 福田 吉彦

温が郊外に比べて高くなる現象のことだが、都市ではより多く自動車が走り、電気ガス機器の使用は当然多く気温が上昇しやすい。したがって、都市の規模が大きくなるほどヒートアイランドの影響が大きくなるといわれているが、地方都市でも大都市より顕著な猛暑日の増加がみられることもあり、ヒートアイランドだけでは説明できない。そうすると、地球規模の温暖化の影響も考慮しないといけないが、身近なところでは、生活からの排熱の抑制、冷暖房の使用量の削減、屋上の緑化——など努力で結果が出る部分もある。また森林面積の減少による二酸化炭素の吸収量の減少については、近年の森林火災の増加に伐採も加わり、年々面積が減少し、それに比例して光

合成が減少していると思われるが、まだ正確なデータはないようである。植林や都市の緑化はますます進めてもらいたい。さらに海洋による二酸化炭素の吸収も重要で、以前は気温上昇により海洋から二酸化炭素が放出され、大気中の二酸化炭素が上昇するといわれていたが、海洋植物が陸上と同程度の二酸化炭素を吸収してくれているため、水生植物も重要な役割を果たしていることが分かってきた。そのほか、微々たることであるが、暑さ対策に携帯扇風機や背部に扇風機のついたベストなど暑さを逃れる製品がいろいろ出ている。これらを利用しなるべく化石燃料を使わないことに励みたい。